



学校だより

# はと広場

2月号

平成31年2月1日

さいたま市立北浦和小学校

TEL 048-831-2463

## 感謝の気持ちをこめて「ごちそうさま」

校長 益子 聡

「ポーっと生きてんじゃねーよ！」—— 昨年末に発表された2018年新語・流行語大賞でトップテンに入った言葉。NHK番組『チョコちゃんに叱られる!』に登場する5歳の女の子の「なぜ? どうして?」の疑問に対して、浅い回答でお茶をにごそうとする番組出演者の大人が、チョコちゃんに“喝”を入れられるときの言葉です。

質問は〈問;から揚げとフライドチキンって何が違うの? → 答;肉に味付けするのがから揚げ、衣に味付けするのがフライドチキン〉〈問;なぜ音楽室には(有名な作曲家の)肖像画があるの? → 答;楽器のおまけだったから〉というような、改めて考えてみると答えがよくわからない根本的な問題ばかりです。新年1月4日の放送は「ごちそうさまってなに?」。この素朴な疑問にお寺の住職さんが分かりやすく解説していました。

### ◆ ご馳走さまは韋駄天さま

「ごちそうさま」は「馳走(ちそう)」に「ご」と「さま」をつけた言葉。「馳走」は中国からきた言葉で「馳(ち)＝速く」「走＝走る」です。ももとは「速く走り回る」という意味の言葉でした。なぜ、それが食後の挨拶になったのでしょうか? それには、仏教の神様(韋駄天(いだてん)様)が大きく関わっています。韋駄天は古代インドの宗教「バラモン教」の神様で、お釈迦(しゃか)様が仏教の守り神として迎えました。インドには、神様 韋駄天が「ご馳走さま」につながる次のような言い伝えがあるそうです。

昔々、聖なる山をお守りする4人の守り神がいた。それぞれに8人の神様が仕えていたが(韋駄天)はそのうちの南の方角の守り神に仕える8人のうちの一人だった。8人の中ではリーダー役だった。

お釈迦様が亡くなられたある日、さらなる悲しいできごとが起こった。人々が悲しみにくれるすきを見て、鬼がお釈迦様の歯を奪ってしまったのだ。あわてふためいた弟子たちは、韋駄天に取り返してほしいと頼んだ。

韋駄天は歯を盗んだ鬼を追いかけ始めた。すると、韋駄天の足の速さにびっくり。ぐんぐんスピードが上がり一瞬で100万キロを駆けぬけてしまった。すさまじく足の速い韋駄天の活躍で、大切なお釈迦様の歯を取り返すことができた。

この言い伝えから、足の速い人を「韋駄天」と言うようになった。

さらに、韋駄天は足の速さを生かし、修行中のお坊さんや人々のためにあちこち走り回って食べ物を集めていた。

こうした活躍のおかげで、韋駄天は食卓を守る神様としても人々に慕われている。

元々「馳走」は「走り回る」という意味だったが、走り回って食べ物を集めている韋駄天の姿から、やりくりをして食べ物を集めることを「馳走」と言うようになった。

その後、江戸時代になって(もてなすために集めた立派な食べ物そのもの)を「ご馳走」と言うようになった。

やがては、食事のため、材料集めに走り回った人、食事を作ってくれた人など関わった多くの人々がそれぞれの韋駄天さま。

すべてに感謝の気持ちを込めて「ご馳走さま」という丁寧なあいさつが定着していったのです。

韋駄天は、今も食の守り神として、多くの寺の台所に祀られています。

先日、全国学校給食週間(1月24日～30日)にあわせて行われた給食委員会によるテレビ放送の中で、代表児童は(給食のときなどに言っている「いただきます」には次のような意味があります)という話をしてくれました。

- ・〈作ってくれてありがとう〉という、給食調理員さんたちへの感謝の気持ち
- ・〈育ててくれてありがとう〉という、野菜やお肉、果物を作り育ててくださる農家の人たちへの感謝の気持ち
- ・〈生き物さん、ありがとう〉という、私たちが元気に成長するために食べ物となった生き物への感謝の気持ち

最後は(私たちが健康で元気に生活できるのは、たくさんの方々のお陰と多くの命をいただいているからということをお忘れず、これからも感謝の気持ちをもって、おいしく、楽しく、大切に給食をいただきます)と、まとめていました。

「いただきます」と「ごちそうさま」は、何気ない挨拶ですが、出された料理を食べ始めるときと食事が終わった後に表す最上級の感謝の言葉です。意味を知って口にすることで、心の栄養にもつながっていきます。

日本人が世界に誇れる美しい挨拶の習慣は、子孫へ引き継いでいきたいものです。